

# 思いや意図をもって表現する力を 育てる音楽科指導の工夫

—指導の手引き「音楽づくりハンドブック」の作成と活用を通して—

## 主題設定の理由

長期研修員 過外 美里

学習指導要領(音楽)改訂の趣旨から

音楽のよさや楽しさを感じることや思いや意図をもって表現したり聴いたりする力を育成することを重視する

平成24年度群馬県学校教育の指針から

音楽的な感受の学習を基に、思考・判断し表現する一連の過程を大切に授業づくりに努め、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする

感受したことを表現につなげること

子どもの実態から見た課題

自分なりに表現の方法を工夫すること

## 思いや意図をもって表現する力が求められています

音楽づくりで、思いや意図をもって表現する力を育てることができます

例えば、こんな課題が...

つくって  
言っても、思  
いつかない



子ども

旋律のつく  
り方って、  
あるの？

しかし

音楽づくりには、指導上の  
課題があります！

指示することがいっ  
ぱいで、指導が行き  
届かない



教師

感じたことって、  
形に表せないから、  
どう指導したら？

## 指導の手引き「音楽づくりハンドブック」の 作成と活用を提案します!!

そこで

## 研究の構想

思いや意図をもって表現できる子ども

音楽づくりハンドブック

伝えて認める子ども

活動の12ステップ

深める過程

つなげる過程

感じる過程

発想する子ども

諸要素を意識  
する子ども

工夫する子ども

技能を高める  
子ども

音楽のもと

常時活動

感受しても表現につなげられない子ども  
自分なりの表現の方法を工夫できない子ども

思いや意図をもって表現する力が  
育つまでの子どもの姿

発想する子ども

自分なりの発想を言葉や音楽に変えようとしている

諸要素を意識する子ども

〔共通事項〕を意識して感受・表現をしようとしている

工夫する子ども

試行錯誤しながら表現の工夫をしようとしている

技能を高める子ども

反復練習をして表現の技能を高めようとしている

伝えて認める子ども

伝え合い、意図やよさを認めようとしている

このように変容できるように  
ハンドブックでお手伝いをします



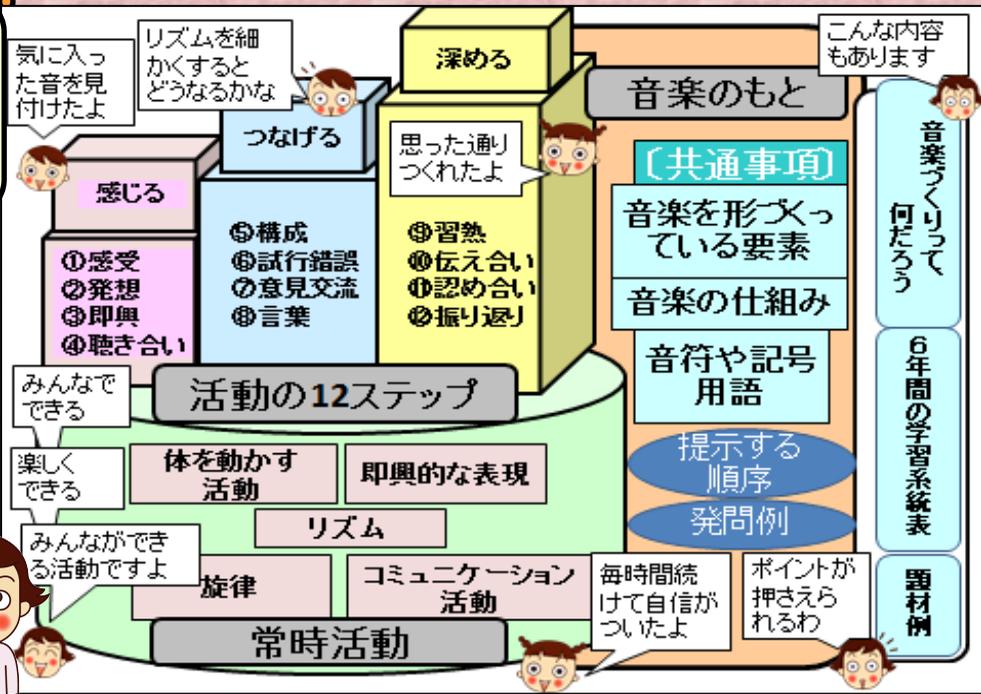
# 研究の内容

「常時活動」  
「活動の12ステップ」  
「音楽のもと」を中心に展開します

この三つの内容を、  
右図のように関連させて指導することが効果的です

指導の過程での  
分かりやすい発問例や題材例も提案しています

## 指導の手引き「音楽づくりハンドブック」とは



## 「常時活動」とは

## 授業の導入で行う慣らし練習です



自分の名前にリズムを付けて、手拍子しよう

タータタンウン  
「さーくらこ、ウン」

タンタンウン、  
「ひろしウン」

活動内でのやりとり

ばくは「しゅう」、二文字はどうしたら？

タタウン、「しゅう」ウンは？

タータンウン、「しゅう」ウンでもいいね

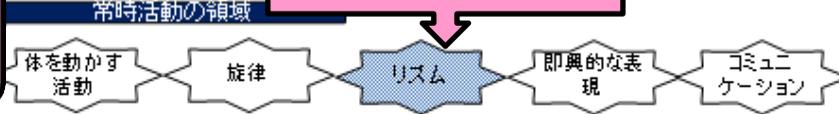
友達と一緒にやると、やり方がよくわかるね

楽しいな！  
もっとやりたい！

仲良く活動できるから、間違っても恥ずかしくありませんね

## 「常時活動」実践例から「名前ゲーム」～「音楽づくりハンドブック」内容～

### 活動による分類



### 常時活動の活動例

○活動名 「リズム」パターンゲーム「名前ゲーム」  
○領域 リズム

活用する手と調整される【共通事項】		活動名 活動の内容	活動
活用する手	調整される		
リズム	速度	リズムパターン遊び「名前ゲーム」	リズムパターンカードに合った言葉を考えて、手拍子とリズム等で表現する。数人の子どもでリーのようにつなげて遊ぶ。
旋律	強弱	リズムパターンカードに合った言葉を考えて、手拍子とリズム等で表現する。数人の子どもでリーのようにつなげて遊ぶ。	「あなたの好きな名前を言うのと同じように、名前カードのインメーションに合わせて手拍子やリズムで表現する。(楽器など、違う言葉で応用しても可)

### 活動のねらい

リズムパターンを習熟することで、一定の速度で正しくリズムをつくり、表現する

### 活動にかかわる「音楽のもと」提示

音色 **リズム** **速度**  
旋律 強弱 拍子  
**反復** **問いと答え**  
音の重なり

### リズムパターンの例示

例   
りんごウン

リズムパターンカード


### 活動の内容

「あなたの好きな果物なあに？」「あなたの名前なんていうの？」と、問いにリズムで答える

# 活動の12ステップとは

三つの学習過程に併せた  
表現を工夫する方法を段階的に探求できる12のステップです

感じる過程

つなげる過程

深める過程

12ステップ

指導・発問例

① 感 受

箏の音を聴いて、  
どんな風に音が出  
ると思うかな？

② 発 想

波の音って、どんな  
リズム？ どんな  
気持ちになる？

③ 即 興

音の速度やリズムを  
分析して効果音をつ  
く参考になしよ

④ 聴き合い

おしゃべりを  
高い音、低い音で  
つくっているね

⑤ 構 成

〇〇〇〇に一つずつ、  
弾きたい弦番号を  
入れていこう

⑥ 試行錯誤

わくわくする気持ち  
って、リズムをどう  
すると雰囲気が出る  
かな

⑦ 意見交流

メンバーがつくった  
旋律を、何を手が  
かりにつなげようか

⑧ 言 葉

基にした音や気持ち  
をあらすじにしよう

⑨ 習 熟

グループの作品を  
聴き合いながら練  
習しよう

⑩ 伝え合い

雰囲気を出すため  
に前奏をつくって  
発表したのかな？

⑪ 認め合い

流れる音に、はねる  
音を加えるのは  
いいアイデアだね

⑫ 振り返り

作品をつくるまでに、  
できるようになった  
ことをまとめよう

<6年「箏で鎌倉のマイテーマをつくろう」の実践から>

①感受 から ②発想へ  
自分なりの奏法を見つけた子どもの記述から

- ・二・六、三・七、四・八と和音で音が出せるんだなあと思った。
- ・リズムを刻むと音の雰囲気が変わる。
- ・一つの音を強くしたり弱くしたりすると音の感じが変わる。
- ・一つ一つの弦にそれぞれの音の雰囲気があって、強く弾いたり、二つの弦を挟んで弾いたりすると、雰囲気がまた変わる。
- ・琴の底をたたくとダジャツと音が出る。琴の糸を爪でこすると、ギーギーとなる。
- ・少し強めに弾くと音が響く。弾く弦を押すと、ピョーンと音が変わる。
- ・二つの弦を一緒に弾くと、音が重なって違う音が出る。

弦の組み合わせ  
を替えると、響き  
も変わるよ

二つの弦をこす  
ると、「ザーザ  
」と、波の音みたい

話合いでアイデアを  
出し合い、発想が膨  
らんでいきます

③即興 ④聴き合い

⑤構成 ⑥試行錯誤  
⑦意見交流 ⑧言葉

話合いの様子

箏で鎌倉のマイテーマをつくろう (2)班

あらすじ

基になる景色 山道 山道を歩いていると、虫の鳴き声、鳥の鳴き声、そしてサワサワと葉の音が聞こえてきました。音いていると、静かで、ひんやりとした気持ちになりました。少し寺社が見えてきました。緑がいてザワザワと人の声も聞こえました。

効果音

虫の鳴き声 鳥の鳴き声 山道の音 寺社の音

サワサワ 木の葉の音 ザワザワ 人の声

せんりつ みどりがいっぱい 自然 すずしい

ジャララン 2回 虫 2回 鳥

七五八五 七九八五 七九八五 七九八五

七五八五 七九八五 七九八五 七九八五

曲構成図

みんながつくった  
旋律を、どう  
つなげるか、  
曲構成図を中心  
に話合いをして  
作品をつくり上  
げていきます

ジャラランと  
音を入れる  
と、拍子が  
取れてテン  
ポが合うよ

⑨習熟  
⑩伝え合い

「こうしたい」と  
ちゃんと理由を  
考えて、つくる  
ようになったよ

全員と一人で弾  
くところを比べて  
聴くと、強弱の  
差が分かるね

⑪認め合い  
⑫振り返り

# 「音楽のもと」とは

〔共通事項〕を基にした、子どもに分かりやすい言葉で表した指導の観点です

＜6年「箏で鎌倉のマイテーマをつくろう」の実践から＞

**遮断機の効果音づくり**

音の雰囲気 **強弱** **速度**

「箏で鎌倉のマイテーマをつくろう」として街で感じる音を挙げてみよう

基になる音	こんな音	こんな速さ	こんな強弱	その他の特徴
しゃだんき				
カンカンカン				

分析する

アイデアを出す

ひく 押す はじく  
トレモロ こする

江ノ電

遮断機の音の特徴を「リズム」「音色」「強弱」「速度」から考えましょう

強弱は、とても強くて、攻撃しそうな音で、カンカンカンと、ずっと鳴っている

速度は、結構速い。けたたましく、細かいリズムだね

結構高い音だね。でも、遠くに行くと低い音になっていく

だんだん音が低くなって、弱くなっていく感じが出せたと思う

二人で交互に、高音と低音の和音を組み合わせ、効果音をつくりました

一人でそれぞれ二つの弦を一緒に弾いて、ぶつかるとような響きが出せたよ

「音楽のもと」要素と発問例から抜粋

- 拍子
- 音符
- 小節
- 音階
- リズム
- 音色
- 強弱
- 速度
- 仕組み

リズムは、長い音、短い音、休符の組み合わせだよ

音色は、「音から感じる雰囲気」だと考えよう

強弱は、音の大きさだけでなくアクセントの違いも聴こう

雰囲気をつかむために速度の違いも聴こう

「音楽のもと」は、題材や実態に併せて内容や手順を選び、分かりやすく説明するために活用します

## 研究のまとめ

### 成果

- 音楽づくりの指導の道筋が明らかになることで、子どもたちが主体的な活動ができて、音楽のよさや楽しさを感じ、思いや意図をもって表現する力が育ちました。
- 三つの中心的な内容を結び付けて継続的に指導したことで、感性・表現の技能が育ち、子どもが自分なりに音楽表現する方法を考えられるようになりました。

### 課題

- 思いや意図をもって表現するために、話し合い活動や感受したことを言葉で表現することが不可欠なので言語活動の指導をしていく必要があります。
- できあがった作品を記録するための記譜を音符や休符に関連させて指導すると、〔共通事項〕の理解につながるので、「音楽づくりハンドブック」の内容のさらなる充実を図りたいと考えます。